大冷工業株式会社
大場 章晴社長
インタビュー

「人に快適、物に最適」を両立 100億円を維持し、100周年へ



完成工事高100億円をこのほど達成した会社が名古屋市にある。空調設備や給排水衛生設備、冷凍冷蔵設備の企画・設計・施工からメンテナンスまでを手掛ける大冷工業株式会社（本社・名古屋市東区東桜2-16-36）で、近く創業80周年を迎える。同社4代目の社長、大場章晴氏は100周年の先までも見据え、今年12月開催の水処理分野の展示会で、シンガポールのスタートアップと共同展開する技術を披露する。「お客様と社会にとってなくてはならない会社であり続けたい」と語る大場社長は、東南アジアを中心とした海外戦略も視野に入れている。同社の現状と将来目標などを聞いた。

名古屋本社ビル外観



―2年後に創業80周年を迎えますね。

大場章晴・大冷工業株式会社代表取締役社長　はい。2028年に創業80周年を迎えます。起源は1948（昭和23）年、豊橋市菰口町で創業した大場冷機商会です。創業者は私の曽祖父、大場又次郎で、祖父の大場恒晴とともに氷の販売から始めたと聞いています。当時はまだ家庭に今のような冷蔵庫がなく、氷は食べ物を守り暮らしを支える、いわば生活のインフラでした。戦時中のこの地域は軍需産業が集まる土地柄で、そこで機械の腕を磨いた曽祖父が、戦後はその経験を活かして製氷や冷凍設備を手掛けました。空調はまだ一般的ではなく、海産物の保冷が主な用途でした。1954年に法人化して大冷工業株式会社となり、1960年に三菱重工様の正規代理店になったのを契機に、1962年に本社を名古屋へ移転しました。社名は「大場冷機」の「大」と「冷」からとっています。創業時の氷は、いま「冷」の技術として、熱中症やデータセンター、食糧危機といった社会課題への取り組みにつながっています。80年の節目は、その原点を見つめ直す機会にしたいと考えています。

―会社概要は。

大場社長　一言でいうと、建物の中の空気と水の通り道をつくる会社です。空調設備、給排水衛生設備、冷凍冷蔵設備の企画・設計・施工から、納入後のメンテナンスまでを一貫して手がけています。本社は名古屋市で、豊橋市、岡崎市、岐阜市、四日市市、鈴鹿市、大津市、枚方市に拠点があり、鈴鹿と枚方が営業所、ほかは支店です。社員は約170名で、お客様はゼネコンや官公庁が3割ほど、残る7割は工場など、自社の環境を良くしたいという課題をお持ちの企業様です。

―現在の経営状況を。

大場社長　猛暑と熱中症対策の義務化を背景に、工場の暑熱対策に加えて、カーボン